

会報・案内

平成16年度第1回理事会議事録

日 時：平成15年3月22日(月)14:00~17:00
 場 所：日本医学放射線学会新事務所会議室
 出 席：遠藤啓吾(理事長), 隈崎達夫(会長), 石垣武男
 小西淳二, 久保敦司, 松井 修, 杉村和朗
 田村正三, 中村仁信, 西谷 弘, 早瀬尚文
 山田章吾, 宮坂和男各理事, 大友 邦
 榎林 勇監事

議 題

1. 前回議事録の承認
2. 第63回日医放総会について
 - I. 総会・評議員会案内の確認
 - II. 評議員提案事項の回答について
3. 第40回日本医学放射線学会秋季臨床大会について
4. 平成15年度歳入歳出収支決算について
5. 日本感染症学会から感染症専門医について
6. 日本整形外科学会から柔道整復業範囲におけるX線検査の導入について
7. 診断用X線による発がんリスクの論文に関するコメントについて
8. 申し送り事項(各委員会)
9. 会告の承認
 - 3月号 第34回放射線による制癌シンポジウム開催について
専門医修練機関・修練協力機関更新について
 - 4月号 第40回日医放秋季臨床大会案内II
10. その他

報告事項

1. JRC理事会報告
2. 学会寄付等受付窓口の変更について
3. 冬季セミナー報告
4. 委員会報告

議 事：

1. 前回議事録の承認
前回議事録(案)を一部訂正し承認した。
2. 第63回日医放総会について
 - I. 総会・評議員会案内の確認
評議員会, 総会の審議事項, 進行, 分担について最終確認を行った。また次々々期の会長選挙の予定については, 1名の立候補者があり理事会で承認, 評議員会へ推薦することとし, 今回は選挙は行わない方向で進めることとした。
 - II. 評議員提案事項の回答について
各事項について理事会の見解を確認し, 各担当理事より答弁することが決められた。
3. 第40回秋季臨床大会について

宗近大会長から平成16年10月28, 29, 30日に開催予定の日本医学放射線学会秋季臨床大会案内(II)及び各研究会案内(いずれも4月号会告)について資料がだされ了承された。

4. 平成15年度歳入歳出収支決算について

隈崎理事より, 平成16年度収支決算書ならびに財産目録の内容について説明があり, 質疑を行い, 大友, 榎林両監事から学会会計が適正かつ正確に運用されている旨, 監査結果があり, 承認された。

5. 日本感染症学会から感染症専門医について

日本感染症学会から出された感染症専門医の二階建制度に関する要望書について説明がなされ, 理事会で検討後, これを了承することとした。

6. 日本整形外科学会から柔道整復業範囲におけるX線検査の導入について

日本整形外科学会から柔道整復業範囲におけるX線検査の導入に関して意見書が届いた件について説明がなされた。当学会としても同意見として内閣府に働きかけることとした。

7. 診断用X線による発がんリスクの論文に関するコメントについて

Lancet誌に掲載された論文に関する日本医学放射線学会のコメント内容について理事会で再確認を行った。CTによる放射線被曝については学会の防護委員会が中心となりガイドラインを作成する必要がある等の意見が出され, 中村理事が担当理事として検討することが了承された。

8. 申し送り事項(各委員会)

次期理事会へ, 学会の執行部の継続性を持たせるために各委員会ごとに活動内容について申し送りを作成することとした。

9. ECRについて

松井, 宮坂国際交流担当理事より3月に開催されたECRの報告がなされた。またECR 2005 meets the Japanese radiological Society案がだされ了承された。今回, 第63回日本医学放射線学会総会にECR Presidentが出席の予定, JRS代表とECR Meetsについての会合を持つ予定であるとの報告がなされた。

AOSRについては, 参加費援助の案内にもかかわらず会員から申し出がなかったとの報告がなされた。

10. JRCについて

小西担当理事よりJRC業務委託契約についての基本姿勢について説明がなされた。近日中にワーキンググループによる第2回会議を開催予定, 契約案について検討する旨の報告がなされた。

9. 会告の承認

3月号 第34回放射線による制癌シンポジウム開催について
専門医修練機関・修練協力機関更新について

4月号 第39回日医放秋季臨床大会案内II

10. その他

杉村理事より放射線科医キャンペーン企画案について資料に

基づき説明がなされた。予算等も含め企業の協力などが得られな
いかなど検討することとした。

報告事項

1) JRC理事会報告

石垣理事より3月16日に開催されたJRC理事会について報告が
なされた。

2) 学会寄付等受付窓口の変更について

日本製薬団体連合会・東京医薬品工業協会・大阪医薬品協会か
ら学会等寄付窓口変更についてのお知らせが学会宛に届いた件に
ついて報告がなされた。

3) 冬季セミナー報告

第17回冬季セミナーについて収支報告がなされた。

4) 委員会報告

久保編集委員長より2月25日に開催された編集委員会について
報告がなされた。

平成16年度第2回理事会議事録

日 時：平成16年4月7日(木)11:00～13:30

場 所：パシフィコ横浜JRS第315会議室

出 席：隈崎達夫会長，遠藤啓吾理事長，小西淳二
石垣武男，久保敦司，松井 修，杉村和朗
田村正三，中村仁信，西谷 弘，早瀬尚文
宮坂和男各理事，大友 邦，榎林 勇監事

欠 席：山田章吾理事

議 題：

1. 前回議事録の承認
2. 第63回日本医学放射線学会総会について
3. 平成16年日本医学放射線学会評議員会および総会について
4. 医学物理士追加認定について
5. 平成15年度板井研究奨励賞報告
6. 医療用線量測定について
7. 申し送り事項について(各委員会)
8. 国立弘前病院における過剰照射事故の原因及び再発防止に關する調査報告案について

9. 日本アイソトープ協会から「医学・薬学をめぐる経営に關するワーキンググループについて

10. JRC契約案について

11. 高エネルギー放射線治療システム装置受渡ガイドラインに
ついて

12. その他

議 事：

1. 前回議事録を承認した。
2. 第63回日本医学放射線学会総会について隈崎会長より総会の準備万端整ったことが報告された。
3. 平成16年評議員会について
評議員会の議事進行および提案事項回答について確認を行っ
た。
4. 医学物理士追加認定について

医学物理士認定委員会より医学物理士の認定追加者について報
告がなされこれを了承した。

5. 平成15年度板井研究奨励賞報告

平成15年度板井研究賞選考について腹部放射線研究会から2名
の推薦が出され理事会で検討後これを了承した。

6. 医療用線量測定について

前回から線量測定事業移行について検討がなされている医用原
子力財団から線量測定事業についての校正業務を引き継ぐことが
了承された旨の回答が学会に届いた件について報告がなされた。
今後引き継ぎなどを含め医用原子力財団と話し合いを進めることを
確認した。

7. 申し送り事項について(各委員会)

各担当理事よりだされた申し送り事項について確認をした。

8. 国立弘前病院における過剰照射事故の原因及び再発防止に關する調査報告案について

早瀬理事より資料に基づき説明がなされた。理事会で検討後こ
れを了承した。

9. JRC契約案について

前回の理事会からの継続審議であるJRC契約案について、平成
16年4月2日に第2回のワーキンググループによる検討会議が開
かれ、訂正を加えた契約案について小西理事から説明がなされ
た。また、契約と別にマニュアルについてもJRCへ作成を依頼中
である旨の報告がなされた。理事会で検討後これを了承進めること
とした。

10. 高エネルギー放射線治療システム装置受渡ガイドラインに
ついて

遠藤理事長より日本画像医療システム工業会から出される高エ
ネルギー放射線治療システム装置受渡ガイドラインについて報告
がなされた。

11. その他

専門医受験資格要望について

田村理事より日本消化器内視鏡学会専門医制度について今ま
での経緯について説明がなされ、理事会で検討後、日本消化器内
視鏡学会に受験資格の要望書を日本医学放射線学会から出すこと
とした。

平成16年度第3回(新理事会第1回)理事会議事録

日 時：平成16年4月10日(土)13:30～8:30

場 所：横浜パンパシフィックホテル地下1Fアドミラル

司 会：遠藤啓吾理事長

出 席：池田 恢，石垣武男，大友 邦，隈崎達夫会長
久保敦司，杉村和朗，田村正三，中村仁信
西谷 弘，早瀬尚文，平岡真寛，松井 修
宮坂和男，山田章吾 各理事，伊藤勝陽
榎林 勇監事

欠 席：本田 浩理事

議 題

1. 理事長の互選について

会議を始めるに当たり、従来から総務理事が本学会では司会を務めてきたので、前理事長が司会を務めることが了承された。

新理事総数16名のうち、新理事15名の出席で会が成立することが告げられた。理事長に求められる条件についての意見交換のうち、前理事長の遠藤啓吾君が推薦され、理事会に諮り承認された。

遠藤理事長より、すでに各理事から出されている各委員会担当希望案を検討し、理事役割分担の案を早急に作成して、次回理事会に諮りたい旨報告がなされた。

平成16年度第1回将来計画委員会議事録

日時：平成16年4月8日(木) 12:00 ~ 13:00
 場所：パシフィコ横浜会議センター
 出席：中村仁信、早淵尚文、江原 茂、角藤芳久
 高橋元一郎、本田憲業、竹田 寛、蒲田敏文
 廣田省三、阪口 浩、大川元臣、菅 一能
 岡崎正敏、桑原康雄、芦澤和人
 欠席：油野民雄、大淵真男、石口恒男、佐藤守男
 清 哲朗

議事：

1. 今回の将来計画委員会の活動内容に関する総括

この2年間の当委員会の活動内容について中村委員長と早淵副委員長より総括がなされた。具体的に成果が上がった活動としては、以前より問題が指摘されていた日医放代議員の選挙制度について立候補資格を規定した上で立候補制を導入したこと、多岐にわたっていた各種委員会の規約を改定してその骨子を一本化したことの2点が挙げられる。

2. 秋季大会のあり方について

以前から春の総会と秋季臨床大会の位置づけが不明確になってきているとの意見があり、当委員会でも毎回議題にのぼって議論を重ねてきた。原則として春は学術発表と機器展示、秋は若手放射線科医の教育に主眼をおいているが、近年は総会でも教育講演が充実してきており、その区別が曖昧になりつつある。シンポジウムや教育講演は春と秋で内容が重複しないように調整する必要があると思われる。教育委員会にテーマの振り分けを依頼したり、秋の大会長が春のプログラム委員に入ってその内容を事前に把握しておく等の対策が必要との意見もあった。

秋季大会と同時に開催している各種研究会については、会員にとっては一度に複数の会に出席できるというメリットがある反面、大会側と研究会側の収入配分の問題などもあり、共同開催する上でのマニュアル作りが急務との結論に至った。また、日医放と日放技の秋季大会を数年間に1回程度同時開催してはどうかとの意見がだされた。

3. 放射線診断の被曝による発癌リスクに関する論文・マスコミ報道について

CT検査などで無駄な検査が多数行われていることも事実なので、検査のガイドラインを作った方が良いという意見や、CTを導入した病院の経営上の問題も考慮する必要があるとの意見が出さ

れた。また、日医放の学会としての見解を他の学会にもアピールする必要があるとの意見もあった。

第61回医学物理士認定委員会 (平成16年度第1回委員会)議事録

日時：4月9日(金)12:00 ~ 13:00
 会場：パシフィコ横浜 JRS-315号室
 出席：山田章吾担当理事、今村恵子、小泉 潔
 駒谷昭夫、齋藤秀敏、佐方周防、佐々木武仁
 白 博樹、田中良明、原田康雄、福村明史
 丸橋 晃、(事務局)佐野正子

議 題

1. 年間予定
2. 医学物理士追加認定について(報告)
3. ガイドライン
4. 認定試験と資格認定について

議 事

1. 年間予定
 - *1 7月30日：受験資格判定申請受付締め切り
 - *2 8月14日：第62回(平成16年度第2回)認定委員会開催。場所：JRS事務局設置所

課題：受験資格判定申請書の審査及び認定。試験に関する各科の担当者の選定(試験問題作成締め切り：9月10日)。試験監督員の依頼。認定審査結果についてはJRS理事長に提出するとともに、速やかに受験資格を認定された者に資格認定証と願書などの必要書類一式を郵送する

- *3 8月31日：受験申し込み受付締め切り
- *4 10月9日：医学物理士試験日
 - ：第63回(平成16年度第3回)認定委員会を開催(試験終了後)

課題：試験の採点及び合否判定。判定結果をJRS理事長に報告する。JRS理事会にて承認後、受験者に合否通知(合格者には資格申請受け付け・締め切り日等を添えて)。後日、JRS会誌及びJSMP会誌へ問題掲載。第64回(平成16年度第4回)認定委員会(資格認定申告書の審査)の開催日を予定。

2. 医学物理士追加認定について(報告)

平成16年4月1日付で資格認定申告のあった森慎一郎氏の資格条件を審議した結果、認定委員会は適格と判定した。この判定結果は4月のJRS理事会において承認された。

4. ガイドライン・例題集

認定委員会委員は医学物理学会に協力して6月10日を目処に例題を作成、6月末に校正終了、7月には販売配付(仮製本)を予定した取り組みを行なう(後日、丸橋委員より各委員に対する現状報告及び依頼)。

5. 認定試験と資格認定について

医学物理士資格認定および同受験資格認定における学歴、経験及び業績の評価に関して、次ぎの手順で作業を行なう。

1. 事務局及び周辺の認定委員で原案を作成する

II.当該認定を行なう委員会に先立ち(委員会当日の開始前など)原案作成委員以外の複数の委員により再チェックを行ない、原案作成委員と協議する。不一致点がある場合には本委員会に問題点を明示し全体で審議する。

6. その他

今後の取り組みに関して：

厚労省出版の「直線加速器による体幹部定位放射線治療」医科点数表解釈において、施設基準として「放射線治療に関する機器の精度管理等を専ら担当する者(診療放射線技師、医学物理士等)」が1名以上いることが明記された。医学物理士名が公文に記載された最初である。医学物理士にとって極めて画期的なことであり、将来の展望を膨らませ得るものである。これを定着発展させるためには「臨床現場の体験に基づく知識と実務経験」を豊かにする取り組みを強化することが現状の日本の医学物理士にとって不可避である。これを実現するための取り組みとして、(集中的現場教育訓練講習会受講などと合わせて)日常診療業務の継続的見学や診療カンファランス、ゼミへの出席などを含む取り組みへの業績点の配点などの検討も必要である。

配布対象は放射線科医以外の医師とする。

3. IVRに伴う放射線皮膚障害の防止に関するガイドラインについて

医療放射線防護連絡協議会で作成されたガイドライン案に、防護委員会のコメントが取り入れられていることが報告された。

4. X線撮影に関する規制緩和について

柔道整復師から要望が出されていたX線撮影の規制緩和に関し理事会から反対意見を表明する予定であることが報告された。

5. Lancet論文の新聞報道の後、3月10日から15日に学会HPに寄せられた質問15件が大野委員から紹介され、すでに回答済みであることが報告された。小児と高齢者の被ばくに関する質問が多かった。これらのQ&Aを学会のホームページで公開することとなった。

6. 患者の全被曝線量を測定記録するという案について、望ましいが、個別測定の蓄積を開始することは、個人データ管理の法令もあり、具体化するために対処すべき事項が多く、現時点での実施は困難であるとの意見があった。

平成16年度第1回放射線防護委員会議事録

日時：平成16年4月10日(土)12:00~13:00

場所：パシフィコ横浜会議センター316号室

出席：西谷 弘(担当理事)、石口恒男(委員長)

阿部由直、岩波 茂、大野和子、岡野友宏

金子昌生、日下部きよ子、古賀佑彦、中村仁信

西澤かな枝、野坂俊介、平岡真寛

町田喜久雄各委員。

欠席：草間朋子、竹田 寛、吉田祥二各委員

議事に先立ち、岡野友宏委員の紹介と挨拶があった。

議 事

1. 診断用X線による発がんの可能性について

防護委員会が中心となって作成したLancet誌の論文に関する日医放のコメントが3月10日付けで発表されたことが報告された。

低線量被ばくの影響について、放射線影響学会などと協力して評価すべきであるとの意見が出され、医療放射線防護連絡協議会(古賀委員)が中心となって計画を取りまとめ実施することとなった。

CT検査の被ばくを評価し診療録に記録することが必要であるとの意見が出され、討議の結果、CTDIなど被ばく推定値の記録が可能な装置を普及させ、記録を残すことを委員会として勧告することとなった。

2. CT検査のガイドラインについて

中村委員より、CT検査の被ばくを減らすため、ガイドラインを作成を検討することが理事会で決定したとの報告があった。特に小児のCT検査に関する実態調査とガイドラインの作成を急ぐべきであるとの意見が出され、ワーキンググループを作って検討することとなった。人選は中村委員と委員長に一任。ガイドラインの